

熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村別データベース(荒尾市)

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
1	荒尾市	野原・川登・菰屋	野原八幡宮風流	のぼらはちまんぐう ふうりゆう	熊本県無形民俗文化財 昭和52年6月20日	10月15日	野原八幡宮	「のぼらさん」の愛称で親しまれている野原八幡宮。750年の歴史と伝統を持つ風流が奉納された。八幡宮の地元3地区が毎年担当。赤い狩衣を着て獅子頭をかぶった少年2人が太鼓と小太鼓をたたきながら笛や歌に合わせて、悪魔祓いの舞楽が起源とされる風流楽を舞い、家内安全や五穀豊穡を祝った。【2008.10.16毎日】 700年以上の口伝口授による荘園領主の祭事「風流」楽(県重要無形民俗文化財)と武家方の祭事「節頭行事」(市無形民俗文化財)の2つが奉納される。七五三の祭りとしても有名。【荒尾市HP2006】 風流の舞いは700有余年前から菰屋・野原・川登の三区より選ばれた舞童が笠をかぶり、笛・太鼓・謡に合せて舞う。毎年10月15日野原八幡宮大祭のとき奉納される。【熊本県ありのままHP2005】 荒尾市の野原、菰屋、川登が約750年にわたって伝承してきた。【2001】 構成⇒各地区とも大太鼓(稚児)1人、小太鼓(稚児)1人、笛(大人)7人。特色⇒この芸能は節頭行事に参加しない宮方(東郷)の3地区によって毎年奉納される。太鼓打ちの動作は舞楽の大太鼓の動きに似ており、太鼓を打つ舞いになっている。【1991】	【伝統芸能】 風流芸	荒尾市教育委員会 0968-63-1111	産交バス・荒尾市営バス 八幡小前下車徒歩4分	七五三
2	荒尾市	野原・川登・菰屋を除く旧野原庄(現荒尾市と長洲町の一部)	野原八幡宮神事(節頭行事)	のぼらはちまんぐう しんじ(せつとうきょうじ)	荒尾市無形民俗文化財 昭和51年3月16日	10月15日	その年奉納する地区と野原八幡宮	「のぼらさん」の愛称で親しまれている野原八幡宮。750年の歴史と伝統を持つ節頭が奉納された。旧荒尾郷(荒尾市と長洲町の一部)の28地区が輪番で担当する節頭は、今年当番地区が都合で参加できなかったため、「風流節頭保存会」が代わって奉納した。「肩代わり奉納は1997年に次いで2回目。節頭と呼ばれる稚児が乗った神馬を4人の仲間が「ヘーロイハーロイ」と独特の節回しの掛け声に合わせて踊りながら引き回した。拜殿前で祝い歌の節頭奉納歌を披露し、収穫に感謝した。【2008.10.16毎日】 700年以上の口伝口授による荘園領主の祭事「風流」楽(県重要無形民俗文化財)と武家方の祭事「節頭行事」(市無形民俗文化財)の2つが奉納される。七五三の祭りとしても有名。【荒尾市HP2006】 野原八幡宮例祭日に「風流」とともに奉納される。【2001】 変遷⇒この行事は建長2年(1261)に野原庄で行われた下地中分で武家方になった西郷で行われていた芸能だが、明治18年からは東郷を含めた28地区の中から年3地区が奉納することになった。構成⇒神馬1頭、節頭行事1人、節頭(稚児)1人、仲間頭1人、仲間4人。【1991】		荒尾市教育委員会 0968-63-1111	産交バス・荒尾市営バス 八幡小前下車徒歩4分	七五三
3	荒尾市	荒尾市荒尾上小路	上荒尾熊野座神社の子ども神楽			4月14日 4月15日	熊野座神社境内	14、15日両日、「ごんげんさん」と親しまれる春の例祭があり、地元の上小路区の児童らが家内安全と五穀豊穡を祈願して、子ども神楽を奉納した。同神社神楽保存会によると、神楽は約160年の伝統がある。かつては青年が真剣を持って舞っていたが、現在は子どもたちが演じており、2002年に市指定無形民俗文化財に指定された。14日夜神楽では、幼稚園児から高校3年生までの男女19人が拜殿で10曲12座を奉納。狩衣や舞衣をまとい、笛や太鼓に合わせて、息の合った舞を披露した。【2013.4.16熊日】 演目⇒初剣、御幣、二剣、二幣、弓弓、剣弓、地固め、三座舞。 変遷⇒戦前は青年により奉納されていたが、戦後小中学生が奉納するようになった。昭和54年から女生徒も加わるようになった。【1991】 住民手作りのイベント「音と光の祭典」にて奉納。10月15日地元小中学生。【2006.10.17.熊日】	【伝統芸能】 神楽			家内安全 五穀豊穡
4	荒尾市	荒尾市野原	御田植祭り	おたうえまつり		6月25日	野原八幡宮	構成、衣装⇒大田主(2人)…袴、陣笠。早乙女(20人)…かすりの着物、赤の腰巻、赤い袴、菅傘。歌姫(7人)…浴衣、赤い袴。 変遷⇒五穀豊穡を祈願した芸能で、歌に合わせて田植えを行う。戦後絶えていたが昭和48年復活した。【1991】		なし(宮総代による)	荒尾市教育委員会 0968-63-1204	

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
5	荒尾市	荒尾市上井手	唐崎宮夜燈(よど)祭りの楽	からさきぐうよどまつりのがく		9月10日	唐崎宮 上井手神社	400年以上続くとされている伝統の「夜燈祭り」があった。五穀豊穡と家内安全を祈り、古式ゆかしい装束に身を包んだ太鼓衆らが楽を奉納した。「諸願成就」と横書きした大行灯を先頭に、行灯行列が上井手上区と下区の間集落を出発。境内では、上区が白装束、下区は黒装束の太鼓衆が笛に合わせて、「オイッ、ハーソーライ」などの掛け声とともに太鼓をたたき楽を奉納した。 【2013.9.12熊日】 演目⇒くずし一番、くずし二番、十連寺一番、十連寺二番、十連寺三番、先のけ一番、先のけ二番、庄山、神納(先のけは上組のみ)。 構成⇒大きな角行灯を先頭に、氏子が行灯、提灯をもってこれに続く、その後上組、下組それぞれの楽が続く。楽は上組、下組それぞれ太鼓2人、小太鼓2人、笛9人で構成される。【1991】		氏子総代	荒尾市教育委員会 0968-63-1204	五穀豊穡 無病息災 家内安全
6	荒尾市	大島	巫女舞	みこまい		2月13日	四山神社	春季大祭「こくろさん」で小学生が巫女舞「豊菜の舞」浦安の舞を奉納。地元の小中学生が半世紀ほど受け継いできた。 【2013.2.10熊日】	【伝統芸能】 神楽			
7	荒尾市	上荒尾	子ども神楽	かぐら	荒尾市無形民俗文化財	4月14日	上荒尾熊野座神社	夜、春の大祭があり、地元の子どもらが神楽を奉納した。神楽は、約160年の歴史があるが、担い手の若者が減り、数十年前から子どもらが伝承している。小中学生13人が神楽を構成する全12座を拝殿で奉納。うち「四剣」では、荒尾第一小の4人が烏帽子に狩衣姿で、左手に剣、右手に鈴を持ち、太鼓と笛の音に合わせてくりりと回ったりして、五穀豊穡を祈願する舞を見せた。 【2008.4.17読売】				五穀豊穡
8	荒尾市		荒尾太鼓	あらおたいこ		2月7日	荒尾総合文化センター	荒尾市の太鼓グループ「荒尾太鼓」が結成20周年を迎えた。地域の応援団をモットーに、ボランティアで各種イベントを盛り上げてきた。20周年の集大成を披露する記念コンサートを開く。1990年、青年会議所の有志らで旗揚げ。現在のメンバーは小学1年生から60歳代の男女62人。市の夏祭り「荒炎祭」をはじめ、市内外のイベントなど年間約50ステージをこなす。【2010.1.13熊日】				